

における支援を支える人材を強化することは必要であり、後述のとおり、拡充を求められている局面もある。

したがって、今後もこのような体制で各区等に配置される人員が増加することが予想され、混乱を生じることが懸念される。

これらの人材のそれぞれの能力・特性を生かして各区等における活動を活発にして学校を支援して教員の負担を軽減し、また、地域を支えるという目的を第一に考え、各区等において、これらの配置人員を、各人員の能力、特性に対応した役割分担が可能となる方法を検討されるよう求めたい。

第4 働き方改革について

1 行政職員、特に教職員の働き方改革の動き

教員の働き方改革の各施策をみると、タイムレコーダーの打刻を厳格にし、打刻時刻に基づいて算出される勤務時間のデータを基礎に、その減少を目指す指標の在り方に典型的に表れているように、民間企業で実施して批判の多かった施策がなお学校で用いられており、民間企業における働き方改革の動きを遅れて追っているという感がある。

タイムレコーダーによって管理される勤務時間を対策の基礎とすると、打刻前及び打刻後、帰宅後の残業が見えなくなってしまい、労働環境の実情が見えなくなるおそれが強く、しかも民間企業では残業手当がなくなるために、改革が労働者にとって著しい不利益をもたらした面があった。

このため、労働基準監督署は、出門記録の提出を求め、出門記録と打刻時間との誤差が大きい場合、出門までの時間をサービス残業と認める方向にある。

2 業務の負担を軽減すること

実質的な労働時間を根本的に軽減するには、業務の負担を軽減する以外にはないのであって、教員の負担を軽減することを目的として、教員を補助する職員を多数配置する思索は、これに適っている。

その一方で、教育ICT関連の機器及びこれらを用いた校務処理及び教育方法の導入は、教員の負担を軽減するが、他方で、これらの維持管理の業務、これらの扱いに不慣れな職員や日常的に惹起するバグ、不具合などへの対応をする職員の著しい負担をもたらしている。

教育委員会事務局は、学校からの質問や相談に対応するデスクを設置して、これに対処しており、当初は、全く電話がつかないという状況であったが、現在では速やかにつながり、対応も適切であるとされている。

しかし、外部への質問・相談の前に学校内での対応は一部の教員が行っており、そこに負担が集中している状態がうかがえる。

また、こどもの貧困対策のためにスクリーニング会議への事案の提出、参加、学校内での対応とされた者の見守りなどによって教員の事務負担が増加している面があることも否定できない。

3 小括

以上のような状況で働き方改革を進められており、一定の成果は認められるものの、一方で負担が増加している面もある。

教員の人材不足が原因の1つであるとのことであるが、教員の働き方の現況が教員志望者を減少させるという負のスパイラルにあるのは疑いないところである。

さらに、教員の負担軽減に努められるとともに、民間では、働き方改革に成功して職員の生産性が向上したとされる企業も少なくないのであるから、これらの成功例に学んで効果的な施策を採られるよう求めたい。

第2章 こどもの貧困対策推進計画について

第1 計画の進捗管理

1 本計画における進捗管理の重視

本計画においては、計画を実効あるものとするために、「施策の進捗状況を把握するとともに、施策の有効性について適切に評価し、評価結果を改善や新たな展開につなげることが重要」とし、「各年度において、計画の進捗管理を効果的・効率的に実施するための重点事業を設定し、指標の数値変化の状況と重点事業の進捗状況や成果等を支援会議に報告する」とともに、これらをホームページに掲載して周知するとしている。

以上のとおり、本計画の推進にあたっては、施策の進捗状況の把握、施策の有効性についての適切な評価、そして、その評価結果を改善や新たな展開につなげるというPDCAサイクルを働かせることが重視されている。

その上で、計画の進捗状況を把握するために計画指標を設定し、その数値の変化を確認しながら計画に基づく取り組みの効果を検証し、必要に応じて計画の見直しや改善を図るとされており、計画指標に大きく影響を及ぼす事業を重点事業として位置付けることになっている。

2 計画方針と現実の計画及び運用とのギャップ

ところが、指摘4乃至7で述べたように、計画指標に大きく影響を及ぼすと考えられない事業（重点事業No.30）、計画指標への影響を期待するのは筋違いなもの（重点事業No.26）が重点事業とされている（指摘5）、計画指標に影響を及ぼすとされている重点事業が全て目標値を達成しているにも関わらず改善がわずかである（指摘6及び7）というように、計画指標の数値変化、各事業の達成状況との関係などの分析が不十分で、重点事業とされているものが計画指標に大きく影響を及ぼすことができているか不明である。もちろん、事業目的を達成して貧困家庭の子どもの状況を改善していると思われる事業があることはいうまでもないが、そうではない事業もあり、あるいは、当該事業の目標値の設定、その検証に問題があると思われた事業が多く、多数の意見を述べることとなった。

計画指標の設定やあり方、数値変化の分析、計画指標に影響を及ぼす可能性の再検討など、本計画の全体を建付けそのものから見直してしかるべき状態である。

3 こども青少年局が現実に果たしている役割

(1) 問題のある達成状況報告がそのまま集約されている現状

こどもサポートネット構築事業の達成状況について、令和2年及び令和3年の達成状況の結果報告に不審な点があったのに、疑問を抱いて確認・検証しないでそのまま集約作業がなされて評価書に記載されていたこと（指摘15）、各学校園からの達成状況の報告には、少なくとも監査人らの視点からは評価に疑義を生じるものがあるが、検証された形跡がないこと（意見79）、こども青少年局では、自局で実施している事業以外については達成状況の適正性を確認するに足りる資料をほとんど保有していないとのこと並びに包括外部監査人側からの質疑に対する対応等に照らして、こども青少年局では、各所属が行っている事業について、自局で検証・分析するという姿勢が全く見られない。

(2) 評価書作成の現状

以上の例示したのは一部であるが、このような実情に照らして、現状では、各所属、各区、各学校園が行った達成状況についての結果報告がチェックされないでそのまま単純に集約されて評価書として取りまとめられており、各事業の達成状況の評価が、本計画の趣旨・目的の正しい理解に基づき、これに沿って適正に行われているかを確認・検証する作業は行われていない。

第2 計画全体の進捗管理、施策の有効性の評価の検証の重要性

各施策、各事業の有効性を適切に評価し、その結果を事後の改善や新たな展開につなぐためには、担当する各所属、各区又は各学校園において行っている、担当する事業の達成状況についての評価が統一的な基準又は指針等に沿って適正に行われていることが前提である。特に各学校園や各区で達成度評価を行っているものは、全体を集約する際に、指摘15のように、集約したものの意味がなくなってしまう。また、各所属が単独で評価するものであっても、この適正さが検証されていなければ、その評価に基づいて行われる事業の有効性評価は、信頼性のないものとなり、改善策や新たな展開の方向を誤るおそれが生じる。

もとより、各所属、各区、各学校園等の評価を全て一から細かく検証することは膨大な作業となって、実施困難であり、また必要もない。

しかし、外部の包括外部監査人らが評価書や資料を見て、その評価の在り方に疑問を抱くようなものについても、何ら確認調査することもないようでは、提出を受けた評価報告をそのままとりまとめて評価書を作成しているという批判を免れない。

第3 計画全体の進捗管理、施策の有効性の評価の検証の主体

1 こどもの貧困対策推進計画の推進体制

大阪市こどもの貧困対策推進本部設置要綱によると、大阪市こどもの貧困対策推進本部は、市長を本部長、こども青少年局担当の副市長を副本部長、こども青少年局こどもの貧困対策推進室長（理事）を統括本部員とし、指名された区長、政策企画室長、市民局・福祉局・こども青少年局・都市整備局の各局長及び教育長を本部員とする組織であり、統括本部員が、本部長、副本部長を補佐して、「調査、企画及び連絡調整の中心的役割を務める」とされている。

本部には、本部員を補佐するものとして、幹事長、副幹事長及び幹事が置かれており、幹事長はこども青少年局こどもの貧困対策推進担当部長兼教育委員会事務局教育環境支援担当部長、副幹事長は教育委員会事務局教育改革推進担当部長兼こども青少年局こどもの貧困対策推進担当部長及び教育委員会事務局学校力支援担当部長兼こども青少年局こどもの貧困対策推進担当部長を充てるものとされ、幹事は本部長が指名するものとされている。同本部の庶務は、こども青少年局において処理するものとされている。

2 評価体制の取り組み

施策の進捗状況の把握、施策の有効性についての適切な評価、そして、その評価結果を改善や新たな展開につなげる作業の主体がこどもの貧困対策本部である。

しかし、本部は、市長をはじめとする幹部の会議体であること、こども青少年局こどもの貧困対策推進室長を統括本部員とし、幹事長及び副幹事長は教育委員会においてこどもの貧困対策を担う教育環境支援、教育改革推進及び学校力支援の各担当部長がこども青少年局こどもの貧困対策推進担当部長を兼務してあたるとされていることは、こどもの貧困対策推進室及び各こどもの貧困対策推進担当部長を兼務する教育委員会事務局の各担当部長らが中心となり、こども青少年局及び教育委員会事務局の実務担当者を幹事として協働し、各所属、各区、各学校園からの報告を検証し、施策の進捗状況を適切に把握し、施策の有効性についての適切な評価する作業を行うことが想定されていると解される。

また、本要綱は、そのように解釈し運用するべきものである。

各論点での意見では、個別に現実に扱っている所属を名宛て人として改善を求めているが、上記のとおり解される本要綱の趣旨に則って、統括本部員が中心となって両局が協働して統一的な検証・評価、見直しの作業をするべきである。

第3章 事業の目標、達成度の評価方法等

第1 総括的視点から

教育振興計画に基づく事業及びこどもの貧困対策推進計画に基づく重点事業等を監査して、これらの事業の目標、指標等の設定、達成度の評価方法について多くの疑問をもった。見直しなどを求める意見を多く述べた。

上記の計画に基づく事業は重なる面もあるので、一括して意見を述べる。

全般的に、分析・検証作業のレベルが低いという印象を免れない。

今日において、行政施策は、科学的・実証的なデータに基づくべきものであると考えられている（証拠に基づく政策立案、エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング。EBPM）が、教育政策においては、科学的な論拠が必要だという考えは、未だ浸透していないといわれている。

大阪市においては、この点を認識して、モデル事業などを実施し、その成果を検証した上で、全体に拡張するという手続・経過を踏んで実施されている事業が多いが、その検証の結果とされるものを見ると、必ずしも、科学的・実証的という評価に値しないものが見られる。

意見5の対象となった検証は、その典型例である。

包括外部監査人らは、有効性の評価方法等について専門的知識を有するものではないが、それでも、この事案のような場合、処置群と対象群における、それぞれ授業前後の理解度に基づき、両群の向上度の差異を見る等方法によって検証するべきであって、かつ容易である。適切な比較なしに当該デジタルドリルを使用する授業の有効性を評価することができないことは分かる。

それにとどまらず、このような評価方法によって事業の有効性を認めたことが公表されていることは、貴市の事業評価全体の信頼性を毀損するおそれすらある。

本邦においても、今日、行動経済学・教育経済学等様々な研究に基づく科学的・実証的な検証は実施可能な状態になっているのであるから、できるだけそのような方法による科学的な実証に努めるべきである。

これは、大阪市の政策決定レベルでは、証拠に基づく政策立案の重要性が強く意識され、政策立案の基本方針とされているにも関わらず、この点が十分に現場に浸透していないことによるのではないかと考えられる。

この状況を改善するために、教育委員会事務局及びこども青少年局は、これらの計画の立案、集約、分析等に携わる職員に対し、証拠に基づく政策立案、特に分析・検証及び評価における科学性、合理性の確保など科学的な分析検証の在り方についての研修を強化するべきである。

第2 事業の達成状況の評価等

1 正確な客観情報の把握

科学的な証拠は、まず正確な情報に基づいていなければならない。

本章第1の3(1)で挙げた事例は、いずれも正確な情報を把握しようという努力がなされていないことを示している。所属間の壁を乗り越えて正確な客観情報を把握・主役することが第一に必要なのである。

アンケート調査による主観的な評価に安易に頼っている傾向があると思われる。アンケート調査自体は、包括外部監査人ら自身も実施したところであり、現場の感覚を伺うことや表に出にくい問題点を捉えるにはよい方法である。しかし、教員自身の能力については、もう少し客観的な評価方法が可能なのであって、自己評価に頼る必要はない。

2 合理的な分析

交絡要因の排除がなされた形跡がない有意性の判断（意見7）、複合的な要因を考慮していないのではないかと疑われる評価など分析・検証の合理性に問題があるものは枚

挙にいとまがない。今回の意見の多数がこの点にかかわるものである。

この点の根本的な改善には、前述のとおり政策立案にかかわる職員の基礎的な力の向上をはかることが重要であると思われる。研修の強化を求めるゆえんである。

3 個別の課題を示す重要な情報であるが、全体の進捗状況を見るには不相当なもの

コーディネーター・スクールソーシャルワーカーの配置のように、専門職者が配置されて会議に参加すれば、本来、役に立って当然であり、その割合には意味がない。

役に立っているという情報を価値あるものとするには、当該専門職が配置されたことによって、そのスキルによって従来はできなかったことができるようになった、会議の機能がアップしたなどの具体的なところまで情報を得なければならないと解される。

逆に、役に立っていると評価されない学校・区があることは重要な情報源である。専門職のスキルが生かせない状況があるか、配置の必要がない学校・区に配置したか、人材に問題があったのか、その理由・原因を調査して事業のあり方に反映させることに生かすべきであろう。

意見77で述べた「区要対協において、実務者会議を年間12回以上開催し、支援内容の検討を行い支援につなげることができている区の割合」も同様であって、年間開催件数を満たして開催されているにも関わらず、内容の検討や支援につなげることには効果があがっていない区について、その状況をヒアリングする等して問題点を探り、事業の改善に生かすことが大切である。

これらは、事業自体の問題、又は各区、学校、地域の実情に合わないなど個別の問題の所在を示す報告であり、事業のPDCAサイクルの回転に必要なかつ重要な情報であるが、全体の進捗状況を示すには不相当であると思われる。

4 課題に取り組む体制の整備の進捗

キャリア教育推進事業における体験学習等を実施した小中学校の割合（意見55）、上記の、「区要対協において、実務者会議を年間12回以上開催」（意見77）、「本市が把握しているこどもの居場所のうち、加入要件を満たしているこどもの居場所の加入率」（意見83）などのように、課題に取り組む体制の整備の進捗に係るものは、一定程度を達成すれば、すみやかに整備された体制をもって、体験学習等の中身の充実、区要対協の会議の中身の充実、構築されたネットワークの実質的な活動の充実を図り、その充実が課題を抱えたこども・家庭の状況・課題に取り組み実績を挙げることを達成目標とし、その状況に影響を与えているか否かを測る実質的な指標を策定し、移行していくべきである。

以上

(別紙 1－1)

I C T ・ 働 き 方 改 革 に 関 す る ア ン ケ ー ト

1 目的

I C T 化、教職員の働き方改革が実際にどのように実践されているかを確認し、有効性及び効率性について検討する。

2 調査の内容及び方法

I C T ・ 働 き 方 改 革 に つ い て、教員に対するアンケートを実施して調査した。アンケート回答への依頼文書とアンケートフォーム (Google フォームを使用) は、それぞれ、別紙 1－2、1－3 のとおりである。

3 調査対象

教育委員会事務局において選定した中学校 1 校及び小学校 2 校 (以下「対象校」という。) に勤務する教員 (講師、非常勤講師を含む) 全員を対象とした。

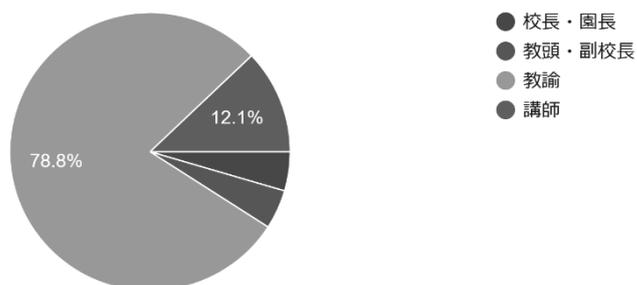
アンケートの回答状況は以下のとおりである。

	小学校 低学年	小学校 高学年	小学生 全般	中学生	回答数 合計	対象者数	回答率
校長・園長			2	1	3	3	100%
教頭・副校長			2	1	3	3	100%
教諭	15	15	10	12	52	87	60%
講師	4	3	1		8	17	47%
合計	19	18	15	14	66	110	60%

回答者に占める各職名の割合は以下のとおりである。(0－1に対する回答)

0－1 あなたの職名を教えてください。

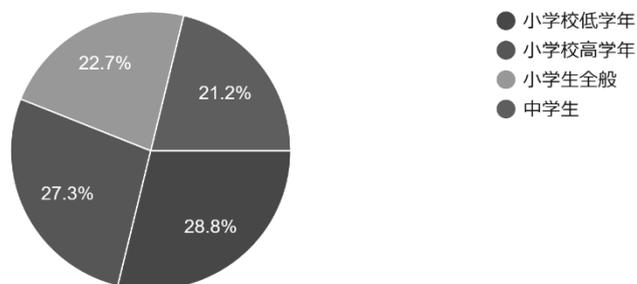
66 件の回答



回答者に占める担当児童生徒の割合は以下のとおりである。（0－2に対する回答）

0－2 あなたが担当している児童生徒はどれですか。

66件の回答



フォームの仕様上、白紙回答は不可能であり、明らかに対象者以外による回答であることが明らかな回答もなかったため、上記の回答の全てを有効回答として扱っている。

4 調査結果

自由記載欄の回答(枠線で囲った部分の回答)については、同趣旨の回答を統合し、または回答の趣旨を整理するため表現を変えているものがある。また、対象校が明らかになることを避けるため、具体的な数値については伏せた箇所がある。明らかな誤字については修正した。

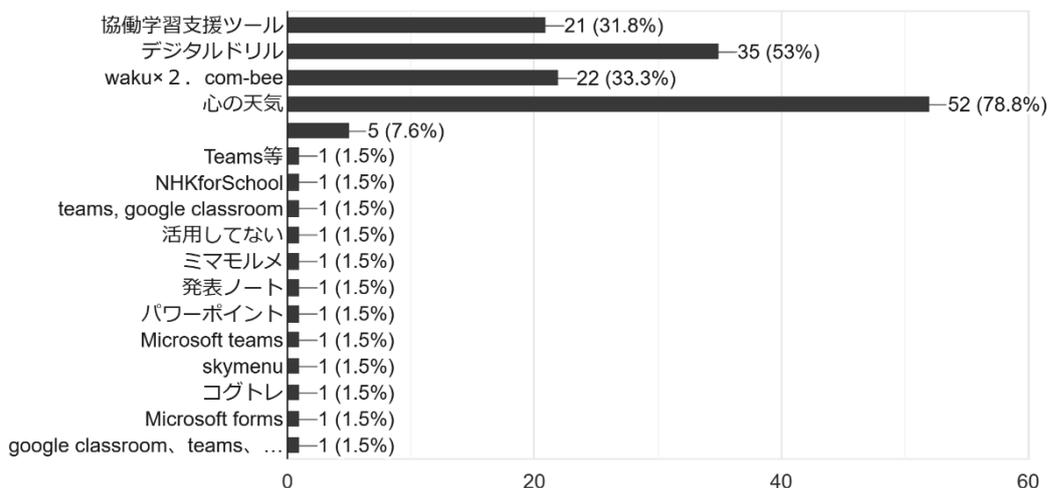
なお、アンケートは大阪市内に413校存在する市立小中学校(分校含む。令和4年5月1日現在。)のうち、3校のみを対象としたものであり、令和5年4月1日における大阪市の教職員数14,463人に対し、今回回答を得たのは66人である。また、回答時に誤った欄にチェックを付した場合等、回答者の意図しない内容で回答されている例が存在する可能性は否定できない。

(1) 教育現場におけるICTの使用状況

ア 教育現場において使用しているICTについて

1-1 過去1か月間で、あなたが教育現場において使用したICTはどれですか（複数回答可）

66件の回答



詳細な記述のない「その他」（のICTを使用している旨）の回答は5件あった。

詳細な記述のある「その他」（のICTを使用している旨）の回答で得られた記述は以下のとおりである。

Teams 等/NHKforSchool/google classroom/活用していない/ミマモルメ/発表ノート/パワーポイント/Microsoft teams/skymenu/コグトレ/Microsoft forms/google classroom、teams、タブレット

イ 教育現場においてICTを使用する頻度について

1-2-1 あなたが教育現場においてICTを使用する頻度を教えてください。

66件の回答

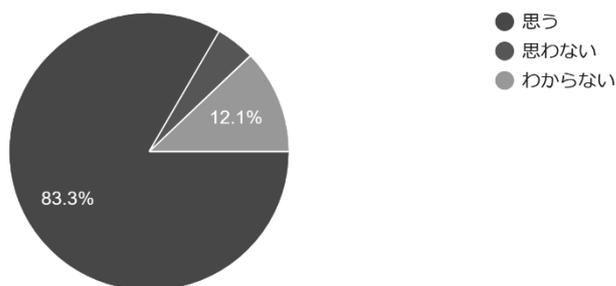


1-2-2 あなたが教育現場においてICTを「月に1~2回使用する」または「使用しない」理由を教えてください。(4件の回答)

- 生徒の登校状況等の基本情報を確認するために使用する。
- 授業を担当していないため
- 指導する立場にないから
- 支援児童はあまりPCを使用しないから

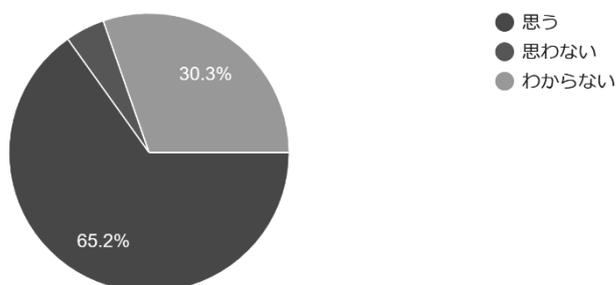
ウ ICTを使用することによる、児童生徒の授業に対する興味・関心度について

1-3 ICTを使用することにより、児童生徒...に対する興味・関心度が高まったと思いますか。
66件の回答



エ ICTを使用することによる、児童生徒の学びの深まりについて

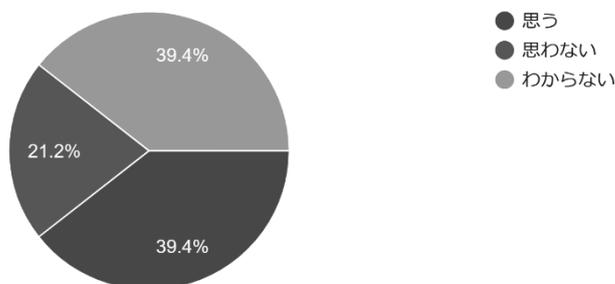
1-4 ICTを使用することにより、児童生徒の学びが深まっていると思いますか。
66件の回答



オ ICTを使用することによる、これまで発表しなかった児童生徒の発言機会の増加について

1-5 ICTを使用することにより、これまで...った児童生徒の発言機会が増えたと思いますか。

66件の回答



カ 教育現場へのICT導入に伴う、回答者の業務量の軽減について

1-6-1 教育現場へのICT導入に伴い、あなたの業務量は軽減されましたか。

66件の回答



1-6-2 あなたが教育現場においてICTを「月に1~2回使用する」または「使用しない」理由を教えてください。(24件の回答)

- メールなので安易に文書が送られてきて、メールチェックする時間が数倍に増えた。
- 私だけではないですが、ICT機器に詳しい教職員や担当教諭へ質問しに来る人が多いから
- ICTに関わる準備 研修 など
- 使い方を学ぶ機会(研修等)が増えた。不具合も多いため、そこに時間が取られる。
- ①こちらが把握すべきことが多い②通信環境が悪い③学習端末本体の性能が低い

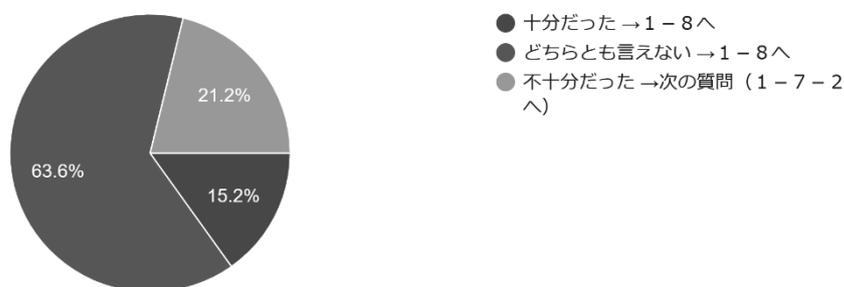
- ・児童タブレットの調整、管理、修理等
- ・児童のタブレットの番号の管理やパスワードの管理、また持ち帰る際に誰が Wi-Fi ルーターを持ち帰るかなどのチェックリストの作成などが普段の業務時間の中で終わらない
- ・子どもの端末の管理、パスワードの管理など
- ・ID やパスワード、貸し出すルーターの管理などをする仕事が増えた。ルーターの接続の確認、家で Wi-Fi に繋がらないなどの問題もこちらで解決することになり、人数の多い学級はそれらの問題だけでかなりの時間をとられることになる。さらに、PC の故障などがあった場合には修理などに出すと長期間替えの PC が来ず、授業中に全体での PC の使用が難しくなり授業の計画がうまくいかなくなることもある。
- ・ICT 推進に関わる対応がたくさんあるため
- ・ICT による教材研究に時間がかかるため
- ・他の物が減っていない中で、ICT が増えたから。他の物に取って代わる部分もあるが、それを使用やこなすための準備、説明、使用時間はかかるため、結果的にさほど変わっていない。
- ・メンテナンス、アップデート、各クラスの管理状況など、仕事が激増した。
- ・不具合が多すぎる。学校に対応や保管方法等をふる理由が分からない。委員会が一元化するべき。ICT、視聴覚の仕事が大幅に増大した。
- ・パソコンを自宅に持って帰って仕事することが増えた。児童用パソコンの更新頻度が多い。児童用パソコンの性能が低く、使う度に問題が起こる。
- ・ICT 機器の使い方の研修や準備、その後の指導など。ICT 機器の管理も大変でトラブルも多い。
- ・ネット環境が悪く、個別の対応が増える
- ・採点がとても楽になったから
- ・ICT 機器の導入において、管理方法や使用方法が明確に示されないまま現場に機材のみ送られるような形になっていると思います。そのため、機器の管理や運用を現場独自で構築しなければならないため、その分の業務は増大していると感じます。また、導入後の教職員への周知や技能の習得にはもちろん時間を要するため、長けている先生方への質問など負担がかかっている先生方もいらっしゃると思います。
- ・準備に時間がかかる
- ・「教えてください。」が増えた。
- ・タブレットが古かったり、ネット回線が繋がらないなどの対応が多すぎたため
- ・端末の故障の対応、積み重なったプロファイルの削除対応などが増えたため。
- ・管理者側の管理の難しさ。パスワードの管理が難しい。情報のアップデートが多く、教職員に伝達する時間がなく、担当教員だけでやらないといけない。子どものための会議がもちろん優先なので、ICT の会議を設けると教職員の皆さんは嫌がられる。

I C T担当へ送られている資料が膨大で何を伝えて全てを伝えると、情報過多で伝わりづらい。担任がI C Tの担当をしていて、日々忙しい中で膨大な資料を読み込んで教職員に伝えるとなると土曜日日曜日に資料を読み込むことになるため、時間外労働をしなさいと言われてるように感じる。

キ ICT導入に伴う、教員への研修やガイダンスについて

1-7-1 ICT導入に伴う、教員への研修やガイダンスは十分でしたか。

66件の回答



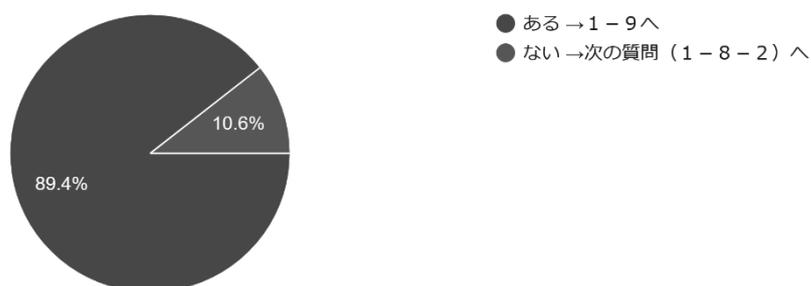
1-7-2 ICT導入に伴う、教員への研修やガイダンスが不十分だった理由を教えてください。(16件の回答)

- ・研修会を開けば習熟もしてもらえるが、時間的に負担になると考え、シンプルに説明している分わかりづらいと感じている人もいると思う。
- ・突然、コロナ禍となり仕方がなかったと思うが、研修、ガイダンスよりもタブレット端末等の環境配備が優先された感があった。
- ・I C T導入でできることが多い分、研修・ガイダンスが多く、マニュアルも非常に多い。業務量を減らすために、非常に多くの時間を割かなければいけない。
- ・すべての教員が得意であるとは限らないので、丁寧な対応をしてほしい。
- ・使い方の説明も受けないまま、自分でやってみてやり方がわかるということが多い。
- ・断片的であり、系統だっていなかった。
- ・管理職のみへの連絡が多い。仕組み化してからおろして欲しい。
- ・トラブルも多いが、対応に時間がかかった。全体周知するには、不十分だったと感じている。
- ・教員がI C Tを使いこなしているように感じない
- ・元々苦手なので自身に苦手意識もあり、言葉から分からないこともあるので・・・相手のガイダンスが不十分というわけではない。

- ・教員不足での児童への指導は難しい。教員は機材トラブルに対し対応が難しく、全体指導の場でのトラブル対応は時間がかかり困難であった。
- ・運用や管理方法の骨子が示されることがあまりなかった。
- ・ガイダンス、マニュアルなどはきちんとあるが、それだけで理解できない教職員へのサポートが必要である。
- ・そもそも研修やガイダンスがあったことすら知らない。教育委員会は配信しているだけで仕事をした気になっている。
- ・もっと簡潔にまとめてほしい。伝達しづらい。読む時間がない。

ク ICTを使用するにあたり、困ったことやわからないことなど、校内で相談できる体制（校内にICTについて相談できる教員がいる、情報共有できる仕組みがあるなど）の利用について

1-8-1 ICTを使用するにあたり、困った...組みがあるなど）を利用したことがありますか。
66件の回答



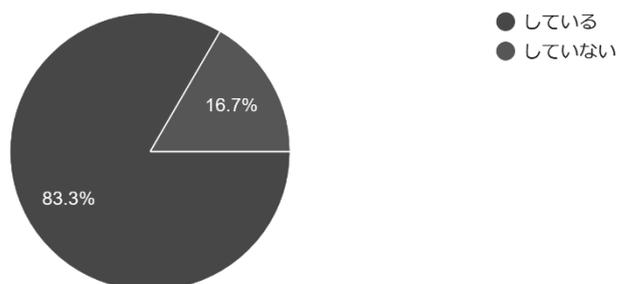
1-8-2 ICTを使用するにあたり、校内で相談できる体制を利用したことがない理由を教えてください。(7件の回答)

- ・教職員の理解不足、日常的に相談する人がいない。
- ・相談する時間がない
- ・まだICTにあまり足を踏み込めていないから。
- ・後からどんどん変わっていくし、学年始まる前にどうすればいいのかどこまでやるのかマニュアル化して管理すべき。
- ・低学年なので困ることがあまりないため。日々の業務でICTについて相談できる教員と時間を合わせにくい。
- ・何を相談したらよいかわからない。
- ・会議が多く、難しい。

ケ ICTを活用する授業の進め方について他の教員とコミュニケーションをとったり、教材や資料などについての情報交換について。

1-9 ICTを活用する授業の進め方について...教材や資料などについて情報交換していますか。

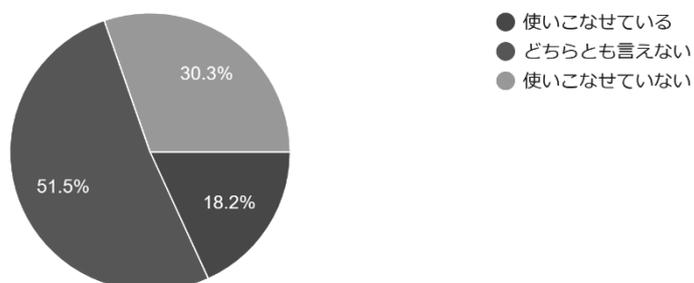
66件の回答



コ ICTを教育に使いこなせているかについて

1-10 あなた自身としてICTを教育に使いこなせていると思いますか。

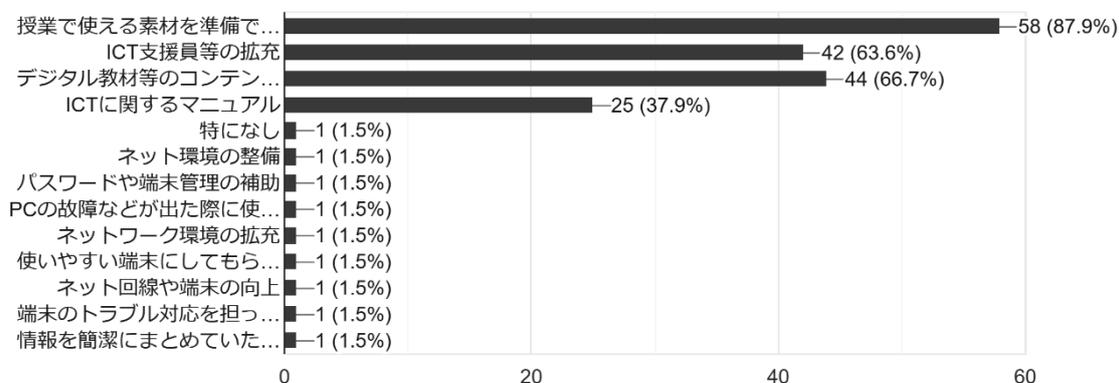
66件の回答



サ 教育においてICT活用を推進する際、求められるサポートについて

1-11 教育においてICT活用を推進する際、...トを拡充してほしいと思いますか。(複数選択可)

66件の回答



※質問文は「1-11 教育においてICT活用を推進する際、どのようなサポートを拡充してほしいと思いますか。(複数選択可)」である。

※既定の5つの選択肢(上記グラフの上から5項目)は以下のとおりである。

- ・授業で使える素材を準備できるソフト・ツールの拡充
- ・ICT支援員等の拡充
- ・デジタル教材等のコンテンツの拡充
- ・ICTに関するマニュアル
- ・特になし

自由記載の選択肢「その他」の回答で得られた記述は以下のとおりである。

特になし/ネット環境の整備/パスワードや端末管理の補助/PCの故障などが出た際に使うスペアの準備/ネットワーク環境の拡充/使いやすい端末にしていきたい/ネット回線や端末の向上/端末トラブル対応を担ってくれる人材が欲しい。授業に集中したい。/情報を簡潔にまとめていただきたい。そうすれば、教職員に情報を伝達しやすい。

シ 教育現場へのICT導入における、改善の余地について

1-12-1 教育現場へのICT導入について、何か改善の余地があると思いますか？

66件の回答



1-12-2 教育現場へのICT導入について、どのような改善の余地があるか教えてください。(41件の回答)

- ICT支援員がいない日もある。機器操作等でうまくいかないときチャット等で教えてくれるなど即応してくれるシステムがあればありがたい。現状のヘルプデスクでの人対応の支援はとてもありがたいが、返事をもらうのに時間がかかる。軽微なものはチャット、難しいものは人対応と分ければ機能しやすいのではないかと考える。
 - 実際使用する際にどうしても大人数になるとバグが起りやすい
 - ICTの管理、整備が教員の負担となっているので、何とか軽減していただきたい。
 - ICT支援員の常駐、SKIP 掲示板の機能拡充・改善
 - 教職員が技術が伴っていない。負担が少ない継続的な研修が必要
- サポートの充実 他の業務の軽減・削減
- ICT導入することはいいことだが、すべての教員が使いこなせることや学習環境をきちんと整える必要がある。
 - アンケートや記録などをICTをうまく活用し効率化する。ICTを活用したほうが効果的な活動とそうでないものを検討し、ICTの活用ありきで考えない。
 - 個人情報の観点からセキュリティが必要なのは十分理解しているが、外部とのメールに管理職の承認が必要なのは負担を感じている。
 - ネットワークの状況が悪い。複数のクラスが使うと使えなくなることが多い。
 - タブレットの動作が重い。Wi-Fiが弱い。破損多い。
 - 人員
 - インターネット環境の整備、管理の徹底、使えるアプリケーション・ソフトの充実
 - ICTの機器や体制を担当する教員のやらなければいけないタスク（故障機の対応、ICTに関する他の教員の対応など）が多すぎる

- ・使用できるハードやソフトは整ってきているが、各学校における管理面は尋常ではない負担がある。現状の支援員は職務範囲を越えてでも管理や整備の支援をしてくれているが、校内で担当する教員の負担が大変大きくなっている。新しい機能やソフト(採点ツールや体力テストなど)の導入も受けてはいるが、実際に現場では負担以上の恩恵を感じるには至っていない。
- ・学習系、校務支援系を分けたことによる、学習ワークシートの管理が難しくなっているため、1つに戻す。児童や教員のパスワードを一括で管理できるシステムづくり。各校にICT専門の人員を常駐(ICT担当の負担が大きすぎるため)。youtubeなどの動画サイト申請の簡素化。
- ・スペアPCの配置。ルーターの種類が複数種類あるので、1種類にして管理しやすくする。回線の改善、1クラスが使用すると使用できない児童が複数名出ることが多い。ローマ字の打てない低学年のために、文字を書いて打つようなタッチペンを用意する。写真などのデータをタブレットなどから授業の資料やホームページの更新に使いたい場合にセキュリティー面で難しい所があるのはわかるが、時間がかかるので簡単にPCで使えるような仕組みが欲しい。
- ・パソコンが重いので、性能を上げる。ICTに詳しく、授業の準備や不具合の対応をしてくれる人を各校に配置する。
- ・校務系を使用している時、しばらく触らないとすぐに消えてしまうので困る。
- ・ICTの推進を求められているが、それを使う場面などをもっと具体的に求められたい。また、推進するのであれば、こちらに使用の余地を持たせるのではなく、この場面ではこのように使用しましょうと強制するくらいでもいいと思う。
- ・発表ノートのグループワーク機能について、一度グループワークに入って各グループでスライドを作成した後、グループワークを解除すると全員分のスライドが出てきてしまい、使いにくい。
- ・いろいろな場面で活用しようと思うと、支援員の訪問回数を増やす必要がある。
- ・児童の実態に合わせて、アプリをインストールできるようにしたい。
- ・制限の緩和。授業で使える素材を準備できるソフト・ツールを一まとめに紹介しているサイトの作成。
- ・業務が増えたこと。端末が使いにくいこと。
- ・使えるアプリを増やして欲しい
- ・わたしのような全くついていけない教員への対応
- ・使えないサイトやアプリが多すぎる。外国籍児童への翻訳やkahoot等が使えない理由が分からない。
- ・容量が少なく、子どもたちの使いたい時に使えない時がある。学習以外でも使えるようになっていて、困っている。
- ・児童が使いやすい教材アプリをタブレットに入れたいが容量の関係で入れられない

と言われた。もう少し入れることができると良い

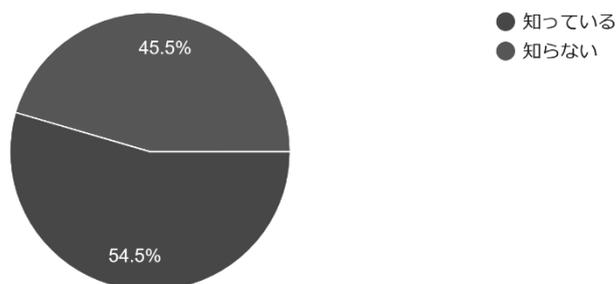
- ・個人差が大きい（ローマ字入力が出来ない等）ので一斉に指導することの難しさを感じます。
- ・予算不足。（パソコンの性能が低い。予備機が少ない。アプリが少ない。）
- ・学習者用端末でゲームをできなくする。
- ・学年に応じた、必要最低限のカリキュラムがあると、何を指導したらよいかわかる。
- ・各教室（特別教室も含む）にモニターを設置すること
- ・もちろんICTの導入は進めていく必要はあると思いますが、もう少し現場の声を吸い上げてほしいと思います。同じ中学校といえど生徒の状況、学校の状況は全然違うので、それぞれの学校に適した導入方法などを検討していただきたいと思います。また、全体研修だけでなく、操作方法の体験などをさせていただきたいと思います。また、機器ばかりの導入で環境整備が追いついていない状況もあると思います。教室の広さや電源回路なども確認していただきたいと思います。
- ・教員の校務支援パソコン、生徒のタブレットのスペックの強化。市教委？が定める基準は満たしているとのことだが、1つファイルを開くだけでもスマートフォンの動作速度よりはるかに遅い。また、教室にいる全員がインターネット回線を使用し課題をする際に、半数が繋がらないことがある。ICTを教育でより発展させていくためにICTに関わる全ての機材のスペックの向上は必須である。
- ・すぐに使える体制と、コンセンツの少なさ
- ・端末の故障時の対応、プロファイルの削除など、端末全般のことについて手助けしてくれる人が、現場には必要。
- ・ネット環境。タブレットの劣化。Wi-Fiの劣化。
- ・通信環境の整備 クラウド等の容量を増やす

(2) 学校園における働き方改革推進プラン

ア 「学校園における働き方改革推進プラン（第1期・第2期）を知っているかについて

2-1 「学校園における働き方改革推進プラン」（第1期・第2期）を知っていますか？

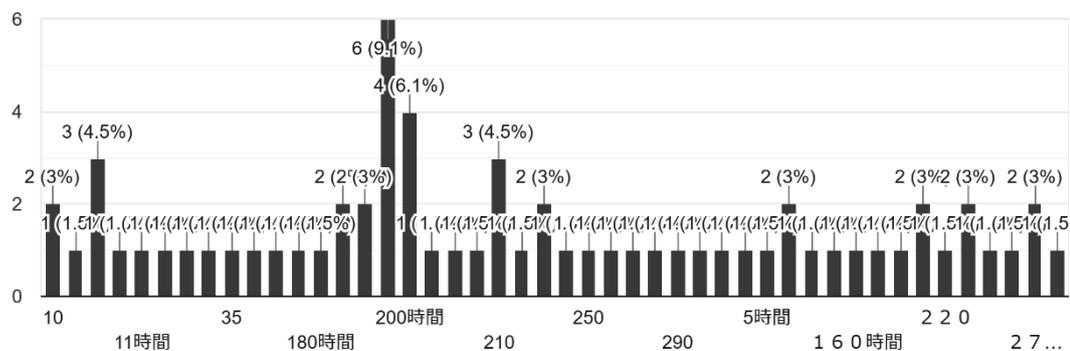
66件の回答



イ 回答者の1ヶ月の平均勤務時間（職場以外の場所で業務を行っている時間を含む）について

2-2 あなたの1ヶ月の平均勤務時間（職場以外...時間を含む）を教えてください。（単位：時間）

66件の回答



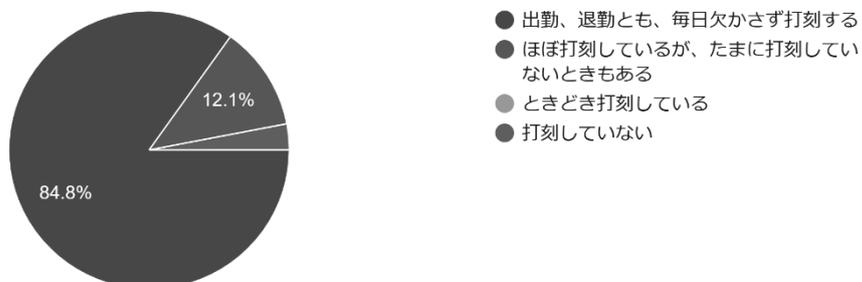
※質問文は「2-2 あなたの1ヶ月の平均勤務時間（職場以外の場所で業務を行っている時間を含む）を教えてください。（単位：時間）」である。

※10時間以下との回答もあったものの、質問の読み違いの可能性もある。なお、最高値は300時間であった。

ウ 教職員勤務情報システムの出勤・退勤の打刻をする頻度について

2-3 教職員勤務情報システムの出勤・退勤の打刻をする頻度を教えてください。

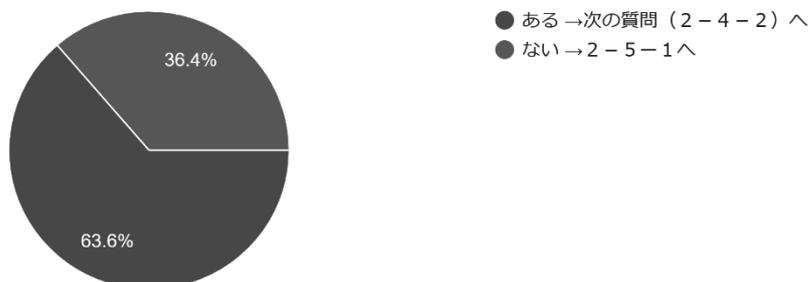
66件の回答



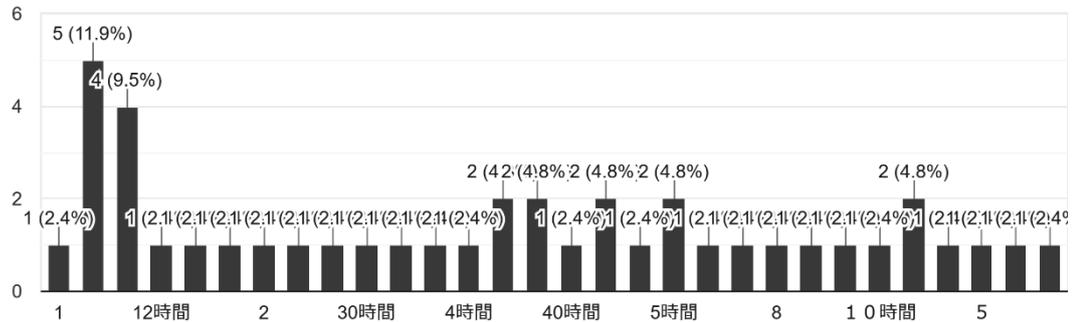
エ 家に持ち帰って仕事をする事について

2-4-1 家に持ち帰って仕事をすることがありますか？

66件の回答



2-4-2 家に持ち帰って仕事をする時間は、お...な数字を入力してください。（単位：時間/月）
42件の回答



※質問文は「2-4-2 あなたの1ヶ月の平均勤務時間（職場以外の場所で業務を行っている時間を含む）を教えてください。（単位：時間）」である。
※平均値は17.143、最大値は60、最頻値は10、中央値は10であった。

なお、回答者の属性と回答の時間は以下のとおりである。

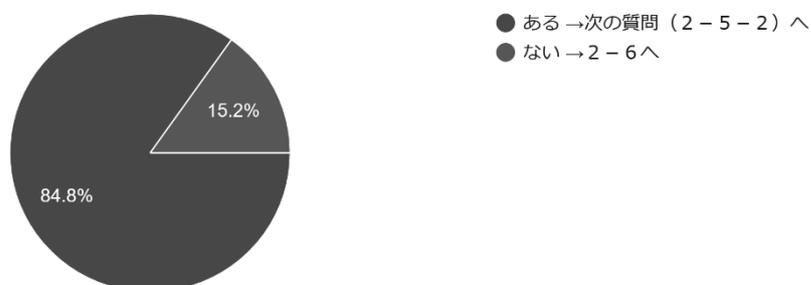
	～9時間	10～19時間	20～49時間	50時間～	合計
校長・園長	0	2	0	0	2
教頭・副校長	0	0	0	1	1
教諭(小学校)	9	9	5	3	26
教諭(中学校)	2	3	4	1	10
講師(小学校)	2	1	0	0	3
講師(中学校)	0	0	0	0	0
合計	13	15	9	5	42

※5～10と幅のあった回答1件については、大きい数字（10）を採用して表を作成した。

オ 令和元年以降、「教員の働き方改革」について意識したことについて

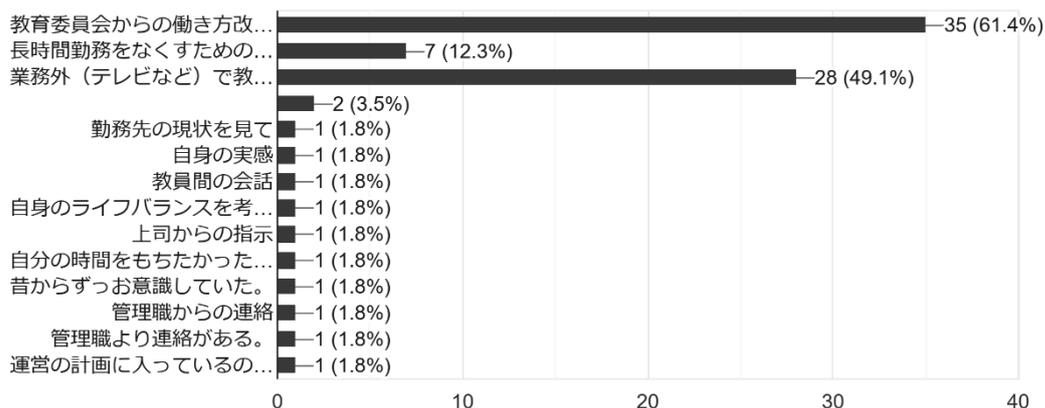
2-5-1 令和元年以降、「教員の働き方改革」について意識したことはありますか？

66件の回答



2-5-2 令和元年以降、「教員の働き方改革...意識したきっかけは何でしたか？（複数回答可）

57件の回答



※質問文は「2-5-2 令和元年以降、「教員の働き方改革」について意識したきっかけは何でしたか？（複数回答可）」である。

※既定の3つの選択肢（上記グラフの上から3項目）は以下のとおりである。

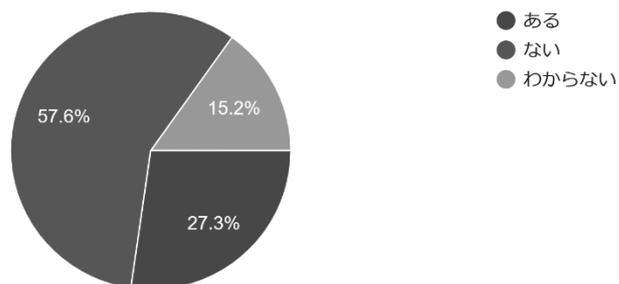
- ・教育委員会からの働き方改革についての通知
- ・長時間勤務をなくすための啓発ポスターを見たこと
- ・業務外（テレビなど）で教員の働き方に関する情報を見たこと

自由記載の選択肢「その他」の回答で得られた記述は以下のとおりである。

勤務先の現状を見て/自身の実感/教員間の会話/自身のライフバランスを考えた/上司からの指示/自分の時間をもちたかったから/昔からずっと意識していた。/管理職からの連絡/管理職より連絡がある。/運営の計画に入っているの。

カ 令和5年度の人事考課制度で設定された回答者の目標の中に、働き方改革の推進に関する項目があるかについて

2-6 本年度の人事考課制度で設定された本年...、働き方改革の推進に関する項目はありますか？
66件の回答

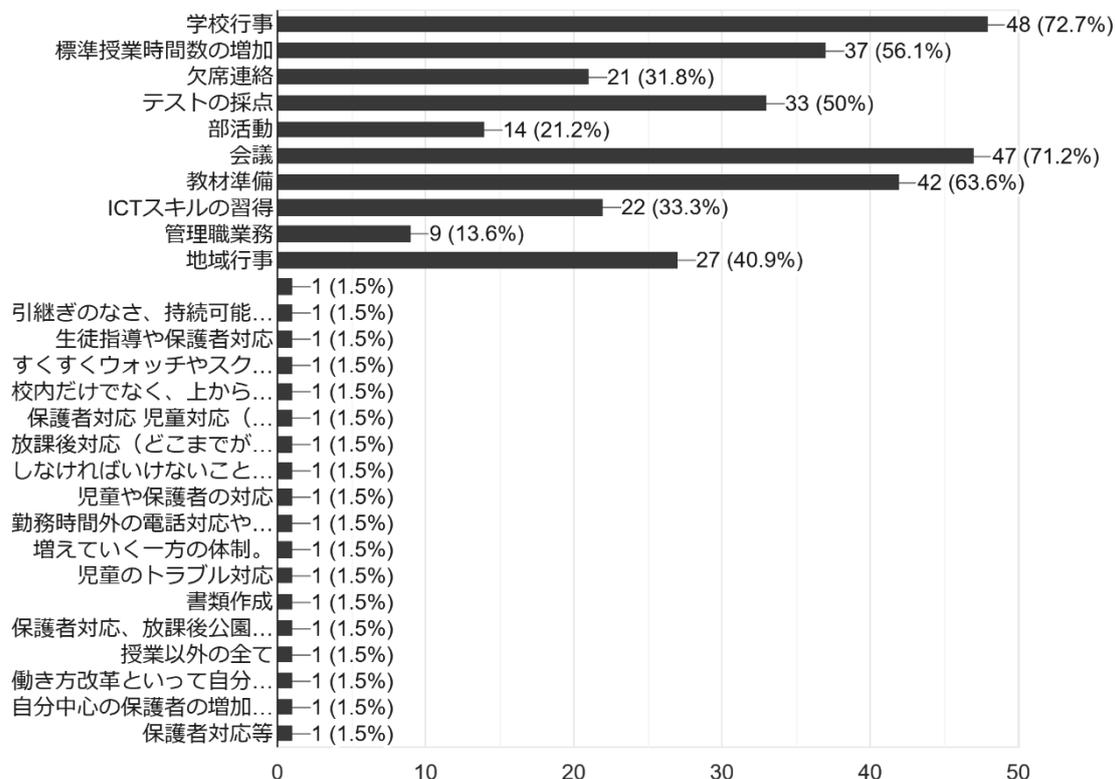


※質問文は「2-6 本年度の人事考課制度で設定された本年度のあなたの目標の中に、働き方改革の推進に関する項目はありますか？」である。

キ 教職員の長時間勤務の原因になっていると感じるものについて

2-7 教職員の長時間勤務の原因になっている...じるものを全て選んでください。(複数回答可)

66件の回答

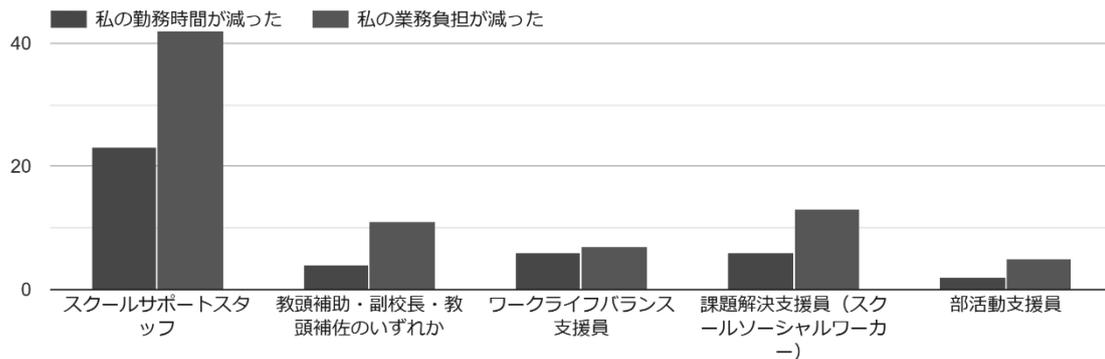


自由記載の選択肢「その他」の回答で得られた記述は以下のとおりである。

引継ぎのなさ、持続可能な体制の未熟さ、長時間勤務改善意識の低さ/生徒指導や保護者対応/すすくウオッチやスクリーニング会議などの独自の取組の多さ/校内だけでなく、上からおりてくる仕事が多すぎる。どこが働き方改革かわからない。市教委や文科省は何も把握できていない。/保護者対応 児童対応 (放課後に起きた事案も含む) /放課後対応 (どこまでが学校対応なのかの線引き) /しなければいけないことがどんどん増えてくる/児童や保護者の対応/勤務時間外の電話対応や、警察や施設に任せるべき地域のトラブルにも関わっていること。/増えていく一方の体制。/児童のトラブル対応/書類作成/保護者対応、放課後公園等での児童のトラブルの対応、新しいこと (英語、ICT等) がどんどん現場においてくること/授業以外の全て/働き方改革といって自分の仕事しか行わない職員が多いためその後処理に追われること/自分中心の保護者の増加による、保護者対応。/保護者対応等

ク 回答者の学校におけるスタッフや支援員と回答者の勤務時間・業務負担について

2-8 あなたの学校には、以下のスタッフや支援...った場合には該当の個所に☑をつけてください。

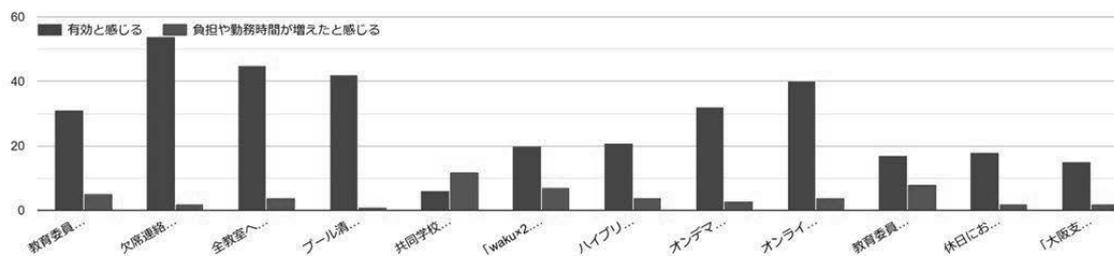


※質問文は「あなたの学校には、以下のスタッフや支援員がいますか？ (→いなければ、回答せず2-9へ) 当該スタッフがいることで、あなたの勤務時間や業務の負担が減った場合には該当の個所に☑をつけてください。」である。

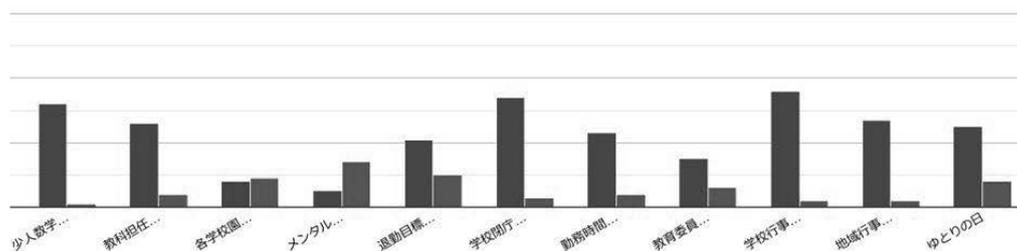
ケ 教職員の業務負担や長時間労働への対策として行われている取り組みのうち、回答者が「有効と感じる」もの、かえって「負担や勤務時間が増えたと感じる」

ものについて

2-9 教職員の業務負担や長時間労働への対策として行われている以下の取り組みのうち、あなたが「有効と感じる」ものを選んでください。かえ



いて「負担や勤務時間が増えたと感じる」ものがあれば、選んでください。(複数回答可)



※質問文は「教職員の業務負担や長時間労働への対策として行われている以下の取り組みのうち、あなたが「有効と感じる」ものに☑してください。かえって「負担や勤務時間が増えたと感じる」ものがあれば、☑してください。(複数回答可)」である。

なお、上記の回答を表にすると以下ようになる。一部の取組については、「有効と感じる」かつ「負担や勤務時間が増えたと感じる」という回答も見られた。

	有効と感じるもの	負担や勤務時間が 増えたと感じるもの
教育委員会から学校園への通知文書等の周知文書の削減	31	5
欠席連絡などのアプリの導入	54	2
全教室への無線アクセスポイントの整備や通信環境の改善	45	4
プール清掃などの外部委託	42	1
共同学校事務室の実施	6	12
「wakux2.com-bee」への研修資料の掲載	20	7
ハイブリッド型研修の推進	21	4
オンデマンド教材の充実	32	3
オンライン研修の活用	40	4
教育委員会が、学校園の作成する計画などを精査、見直し、内容についての規定を整備すること	17	8
休日における部活動の地域連携・地域移行	18	2
「大阪支部活動指針～プライヤーズファースト～」で部活動の休養日等を設定すること	15	2
少人数学級への移行	32	1
教科担任制（専科指導）の推進	26	4
各学校園での安全衛生活動の推進	1	9
メンタルヘルス研修	5	14
退勤目標時間の設定	21	10
学校閉庁日の実施	34	3
勤務時間の割り振り変更	23	4
教育委員会事務局による教員の時間外勤務実績の確認	15	6
学校行事の見直し	36	2
地域行事への参加時間の短縮	27	2
ゆとりの日	25	5

ICT・働き方改革について寄せられた意見・考えの概要(2-10自由記載欄の回答)
(回答数 21 件)

ア ICTに関する記載

・管理職は PC を校務で使うことがさらに増加している。しかし、メモリが足りないの

か、反応が鈍かったり、固まったりする。もう少しスペックを上げていただけたら作業もしやすい。

- ・現在、配備されているタブレット端末等、ICT機器の更新や保守が安定して行われるか不安。予算面でなかなか大変であると思われるが、現場では使用し始めて定着してきているので、安定した更新、保守整備をお願いしたい。
- ・テストの採点アプリは業務軽減において非常に有効。
- ・校務系への接続の時に接続時間がやたらとかかるし、ログインを一からしなければいけない時もある。そこに何分も何分も取られていることが勤務時間超過にもつながっている。
- ・機器の管理。iPadを導入する等して欲しい。心の天気も効果は感じられない。デジタルドリルは一定の効果がみられる。
- ・端末などの管理や転出入によるパスワードの配布など、教員による負担が大きい。
- ・一人一台端末の導入は、授業をする上でとても良かった。本当に感謝している。しかし、端末関連の業務を教員に丸投げは良くない。故障対応で電話をしたり、端末のプロファイル削除を教員に背負わせるのではなく、人員を配置してほしい。
- ・大阪市のWi-Fiの強化 端末導入時から変わっていない。せっかく時間をかけて教材の準備をしても生徒から、「繋がらない」という悲しい声を聞くことがとても辛い。
- ・欠席連絡アプリ「ミマモルメ」、自動採点システム「百問繚乱」は効果があった。非常に助かっています。ありがとうございます。
- ・waku-wakuの充実 教科で参考にしたいと思って、指導案を検索してみても更新がされてなさすぎて何の参考にもならないし、蓄積が全くされていない。良い授業、効果的な授業は大阪市で共有したい。そもそも、教員から載せたいと依頼するシステムがおかしい。大阪市の中で、忙しい中素敵な授業をしている先生はたくさんいるし、生徒の力を伸ばすための授業の工夫をしている先生はたくさんいる。学力のしんどう学校でもチャレテの平均点を上げている先生はたくさんいる。本来、そんな先生方を見つけてスポットライトを当てるのは委員会の仕事のはずであるが、全く努力していないことがwaku-wakuの教科を見ているとよく分かる。

イ 働き方改革に関する記載（ICTに共通するものを含む）

- ・地域行事への参加時間の短縮については、特に変化はない。これまで通り教職員へ参加要請はあるし、地域の協力を得て運営されている学校がそれを断るのは難しい。学校は地域に助けてもらっているのに、地域に協力はしないのかという構図になってしまう。この点については、これまで通りバランス感覚をもって対応していくしかないと感じている。
- ・教職員の人数を増やせばいい
- ・SKIPの活用や8月から導入された採点支援ソフトの導入は非常に有効であり、さら

なる機能拡充・向上を望む。SKIP に関しては、SKIP の機能改善や教育委員会レベルでできる働き方改革に関して、思いついたときに書き込めるような掲示板や問い合わせフォームが SKIP 内にあればとたびたび思う。

- 卒業証書の押印が印刷になること（今年度開始）は非常に助かる。
- 会計年度職員の配置は、非常に助かっている。主幹司書が来られたことで、図書館開放日、利用者数が増加しただけでなく、1人当たりの貸し出し冊数も前年度より7倍近くになるなど結果が出ている。こういった職員の方々は、〇年契約などではなく継続して配置していただき、教員が抱えている多くの業務の削減に貢献していただきたい。
- 文科省や教育委員会レベルでの働き方改革の指導が必要であるとする。現状は結局のところ、「各学校で努力しましょう。何をするかはお任せしますが自分たちでちゃんとやってね。」と言っているにすぎないと感じる。
- 「こういうやり方や方法があるよ。」ではなく、大阪市がこれまでにしてきた SKIP や採点支援ソフト、卒業証書の押印の印刷化など、実際に行っていくことが必要。
- 教員を増やすこと 1クラスの在籍数を減らす
- 保護者からの無理難題についての弁護士対応があれば、精神的、業務負担の軽減に繋がると思う。
- コロナ禍では入学、卒業式に来賓を招くことがなく、案内送付、受付、来賓紹介、対応等がなく、時間短縮となり生徒中心の厳かな式典となったが、今後はまた元に戻る傾向があり、業務が増える。
- 若い世代が多くなり、産休、育休、育児と仕事との両立で苦慮していたり、介護等で離職する教員も増加している。休める環境を作るためには、人材の確保が必要だと考える。
- 「ゆとりの日を設定する」は何の働き方改革にもなっていない。結局は家に持ち帰って仕事をするだけ。できるなら「クラスの人数を減らす」「スクールサポートスタッフ等人の数を増やす」などが必要。
- ICTの管理など、仕事量が増えていく中で、退勤時刻を早める日を作っても、家で仕事をする時間が増えるだけかえって負担となる。会議の精選をしたり、行事を吟味したりするようにして仕事量を減らし、無理なく早い時刻に退勤できるようにしてほしい。
- ゆとりの日などの定時退勤日は仕事が減っているわけではないのに仕事の時間を減らすことになり負担が増えている、次の日に朝早く学校に来て仕事をするようになることもありあまり意味を感じない。
- 教えることが年々増えていく中で業務を減らすことは難しいので、常勤の講師や教員の採用人数を増やす必要があのではないかと思う。専科の教員を増やしたり学年に付いてくれる教員などがいると負担が減る。

- 教育委員会や文部科学省への提出書類や調査が多い。特にインクルーシブ関係の提出書類が多く負担になっている。
- 児童や保護者対応が年々たいへんになっている中で、時間を削減しながら、学力向上や安心・安全な学校作りをしていくのは、なかなか難しい。教員の質と量の確保が、一番の改革になると思う。
- ゆとりの日は業務内容が減らないままだと、ただ持ち帰りが増えてしまうだけだった。
- 学校に配置される人員がもっと増えれば業務が軽減されると思う。ICTの推進等も進み、子どもたちにも一人一台端末が設置されているので、それらを有効に利用して、配布物を紙媒体からデータで配布するようしたり、授業をデータベースで行えるようなシステム作りなどを進めることができれば、少しずつ負担も軽減していくのではないか。簡単なことではないが、こういったことが実現していけばもっと業務縮小が進むのではと思う。
- 本格的に、教員の働き方について考えていかないといけない時期に来ているように思う。増えていくばかりの体制である。校務支援の連絡も委員会通知や事務通知は別のルートにしてみたい。
- 何より教員を増やすことが大切。そのために労働環境と賃金の改善が必要。同時に少人数学級を実現させてほしい。
- 学校に教員以外の支援員やスタッフは必須である。教員の本分である授業指導に集中できるような環境が必須である。その上でも行事などの精選は必須である。文科省や市教委が具体的に、また半ば強制的に働き方改革を行わないのであれば、各学校において学習指導要領に記載がないが学校の行事予定に載っているものは全て削除するなどしていかなければ教員の業務改善はできない状況である。
- 働き方改革を掲げてサボる教員が増えていることが残念である。生徒保護者の意識の変化、日々の細やかな業務への評価などが無ければ働いている意味をなくし、やる気を失う教員が多くなると思う。実際、教科指導のみの教員が増え、生徒との関わり、他の教員のサポート、チーム意識が皆無の教員は増えていると思う。
- 頑張っている先生が報われるようにする 簡単に休む教員の補欠に入っても何もなく、学年主任や教務主任、進路指導主事など責任ある立場に立っても何もなく。良い先生を集めるなら、頑張るものが報われる制度を作してほしい。
- 情報や新しい試みは嬉しいが研修を担任や学校の、先生がするのはとても負担であり、外部から研修していただきたい。

以上

(別紙 1 - 2)

2023年10月

教員のみなさまへ

「ICT・働き方改革に関するアンケート」のお願い

大阪市包括外部監査人 川 下 清

本年度、大阪市包括外部監査人は、「子どもの教育と学びの支援に関する事務事業の執行について」をテーマに、包括外部監査を実施しています。

教育の現場では、ICT化、教職員の働き方改革などが進められています。これらはいずれも、「子どもの教育と学びの支援」において重要な取り組みですので、実際にどのように実践されているか、教員の皆様のご感想・ご意見等をお伺いし、これまでの取組結果を振り返るとともに、今後の取り組みに生かすことができればと考え、下記のアンケートへのご回答をお願いする次第です。

～包括外部監査とは～

市長が、毎会計年度、弁護士や公認会計士など、市から独立した外部の専門家と包括外部監査契約を締結し、特定のテーマについて行う監査制度です。

2023年度は、教育委員会（学校園を含む）、こども青少年局、各区が対象とされています。

【アンケートの方式について】

匿名で実施し、個人や連絡先、具体的な所属などをご回答いただかない方式で行います。

※所要時間：5分程度

【回答方法】右のQRコードを読み取り、アクセスしてください。

<https://forms.gle/ejbe6C4DXADqtetV6> (Google フォーム) →



【回答期限】10月27日（金）

【大阪市包括外部監査人から皆様へ】

日々、現場で試行錯誤されている皆様のご意見やお考えが、「子どもの教育と学びの支援」において特に重要です。包括外部監査人は、ICT化や働き方改革をより有意義なものとするため、日ごろ皆様が感じていることを率直にご教示いただきたいと考えています。広く皆様にご回答いただくとともに、ICT化や働き方改革について、特にご意見やお考えをお持ちの方は、積極的に自由記載欄にご記入いただければ幸いです。なお、ご回答については匿名性を確保し、ご回答内容等から個人を特定することはありません。業務でご多忙の中、大変恐縮ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

(別紙 1 - 3)

ICT・働き方改革に関するアンケート

こちらは、大阪市包括外部監査人によるアンケートフォームです。
大阪市における教育のICT化や働き方改革に関する取組について、皆様にアンケートへ
のご回答をお願いしております。
アンケートは無記名式であり、個人を特定するものではありません。
回答締切：2023/10/27（金）

 保存が無効になっています

* 必須の質問です

0 所属等

0-1 あなたの職名を教えてください。*

- 校長・園長
- 教頭・副校長
- 教諭
- 講師

0-2 あなたが担当している児童生徒はどれですか。*

- 小学校低学年
- 小学校高学年
- 小学生全般
- 中学生

次へ

1/3 ページ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 梅田総合LO 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)



ICT・働き方改革に関するアンケート

 保存が無効になっています

* 必須の質問です

1 教育現場におけるICTの使用状況

このページでは、教育現場におけるICTの使用の状況についてお聞きします。

1-1 過去1か月間で、あなたが教育現場において使用したICTはどれですか
(複数回答可)

- 協働学習支援ツール
- デジタルドリル
- wakux 2. com-bee
- 心の天気
- その他: _____

1-2-1 あなたが教育現場においてICTを使用する頻度を教えてください。*

- 毎日使用する → 1-3へ
- 週に3~4回使用する → 1-3へ
- 週に1~2回使用する → 1-3へ
- 月に1~2回使用する → 次の質問 (1-2-2)へ
- 使用しない → 次の質問 (1-2-2)へ



1-2-2 あなたが教育現場においてICTを「月に1～2回使用する」または「使用しない」理由を教えてください。

回答後、次の質問（1-3）へ

回答を入力

1-3 ICTを使用することにより、児童生徒の授業に対する興味・関心度が*高まったと思いますか。

- 思う
- 思わない
- わからない

1-4 ICTを使用することにより、児童生徒の学びが深まっていると思いますか。*

- 思う
- 思わない
- わからない

1-5 ICTを使用することにより、これまで発表しなかった児童生徒の発言*機会が増えたと思いますか。

- 思う
- 思わない
- わからない



1-6-1 教育現場へのICT導入に伴い、あなたの業務量は軽減されましたか。*

- 軽減された → 1-7-1へ
- 変わらない → 1-7-1へ
- 増大した → 次の質問 (1-6-2)へ

1-6-2 教育現場のICT導入に伴い、貴方の業務量が増大した理由を教えてください。

回答後、次の質問 (1-7-1)へ

回答を入力

1-7-1 ICT導入に伴う、教員への研修やガイダンスは十分でしたか。*

- 十分だった → 1-8へ
- どちらとも言えない → 1-8へ
- 不十分だった → 次の質問 (1-7-2)へ

1-7-2 ICT導入に伴う、教員への研修やガイダンスが不十分だった理由を教えてください。

回答後、次の質問 (1-8-1)へ

回答を入力



1-8-1 ICTを使用するにあたり、困ったことやわからないことなど、校 *
内で相談できる体制（校内にICTについて相談できる教員がいる、情報共有で
きる仕組みがあるなど）を利用したことがありますか。

- ある → 1-9へ
- ない → 次の質問（1-8-2）へ

1-8-2 ICTを使用するにあたり、校内で相談できる体制を利用したことがな
い理由を教えてください。

回答後、次の質問（1-9）へお進みください。

回答を入力

1-9 ICTを活用する授業の進め方について他の教員とコミュニケーション *
をとったり、教材や資料などについて情報交換していますか。

- している
- していない

1-10 あなた自身としてICTを教育に使いこなせていると思いますか。 *

- 使いこなせている
- どちらとも言えない
- 使いこなせていない



1-11 教育においてICT活用を推進する際、どのようなサポートを拡充して *
ほしいと思いますか。(複数選択可)

授業で使える素材を準備できるソフト・ツールの拡充

ICT支援員等の拡充

デジタル教材等のコンテンツの拡充

ICTに関するマニュアル

特になし

その他: _____

1-12-1 教育現場へのICT導入について、何か改善の余地があると思いま *
すか?

現状で特に問題ない → 「次へ」を押して次のページへ

改善の余地がある → 次の質問 (1-12-2) へ

1-12-2 教育現場へのICT導入について、どのような改善の余地があるか教
えてください。

回答を入力

戻る

次へ

2/3 ページ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは 梅田総合LO 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム



ICT・働き方改革に関するアンケート

 保存が無効になっています

* 必須の質問です

2 学校園における働き方改革推進プラン

このページでは、学校園における働き方改革推進プラン（第1期・第2期）に関連してお伺いします。

2-1 「学校園における働き方改革推進プラン」（第1期・第2期）を知って *
いますか？

- 知っている
- 知らない

2-2 あなたの1ヶ月の平均勤務時間（職場以外の場所で業務を行っている時 *
間を含む）を教えてください。（単位：時間）

回答を入力

2-3 教職員勤務情報システムの出勤・退勤の打刻をする頻度を教えてください *
い。

- 出勤、退勤とも、毎日欠かさず打刻する
- ほぼ打刻しているが、たまに打刻していないときもある
- ときどき打刻している
- 打刻していない



2-4-1 家に持ち帰って仕事をすることがありますか？ *

- ある → 次の質問 (2-4-2) へ
- ない → 2-5-1 へ

2-4-2 家に持ち帰って仕事をする時間は、おおむね月に何時間くらいですか？ 大まかな数字を入力してください。(単位：時間/月)

回答後、次の質問 (2-5-1) へお進みください。

回答を入力

2-5-1 令和元年以降、「教員の働き方改革」について意識したことはありますか？

- ある → 次の質問 (2-5-2) へ
- ない → 2-6 へ

2-5-2 令和元年以降、「教員の働き方改革」について意識したきっかけは何でしたか？ (複数回答可)

回答後、次の質問 (2-6) へお進みください。

- 教育委員会からの働き方改革についての通知
- 長時間勤務をなくすための啓発ポスターを見たこと
- 業務外 (テレビなど) で教員の働き方に関する情報を見たこと
- その他: _____



2-6 本年度の人事考課制度で設定された本年度のあなたの目標の中に、働き * 方改革の推進に関する項目はありますか？

- ある
- ない
- わからない

2-7 教職員の長時間勤務の原因になっていると感じるものを全て選んでください。（複数回答可）

- 学校行事
- 標準授業時間数の増加
- 欠席連絡
- テストの採点
- 部活動
- 会議
- 教材準備
- ICTスキルの習得
- 管理職業務
- 地域行事
- その他: _____



2-8 あなたの学校には、以下のスタッフや支援員がいますか？（→いなければ、回答せず2-9へ）

当該スタッフがいることで、あなたの勤務時間や業務の負担が減った場合には該当の個所に☑をつけてください。

	私の勤務時間が減った	私の業務負担が減った
スクールサポートスタッフ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教頭補助・副校長・教頭補佐のいずれか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ワークライフバランス支援員	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
課題解決支援員（スクールソーシャルワーカー）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
部活動支援員	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



2-9 教職員の業務負担や長時間労働への対策として行われている以下の取り組みのうち、あなたが「有効と感じる」ものに☑してください。

かえて「負担や勤務時間が増えたと感じる」ものがあれば、☑してください。

(複数回答可)

	有効と感じる	負担や勤務時間が増えたと感じる
教育委員会から学校園への 通知文書等の周知文書の削減	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
欠席連絡などのアプリの導入	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
全教室への無線アクセスポイントの整備や通信環境の改善	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
プール清掃などの外部委託	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
共同学校事務室の実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
「wakux2.com-bee」への研修資料の掲載	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ハイブリッド型研修の推進	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
オンデマンド教材の充実	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
オンライン研修の活用	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教育委員会が、学校園の作成する計画などを精査、見直し、内容についての規定を整備すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
休日における部活動の地域連携・地域移行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
「大阪支部活動指針～プライヤーズファースト～」で部活動の休養日等を設定すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
少人数学級への移行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



教科担任制（専科指導）の
推進

各学校園での安全衛生活動
の推進

メンタルヘルス研修

退勤目標時間の設定

学校閉庁日の実施

勤務時間の割り振り変更

教育委員会事務局による教
員の時間外勤務実績の確認

学校行事の見直し

地域行事への参加時間の短
縮

ゆとりの日

2-10 自由記載欄

ICT・働き方改革についてのご意見・お考えがありましたらご記入ください。

例えば、2-9に記載されている取り組み以外にも、有効と感じる取り組みや、かえって負担や業務時間が増えたと感じる取り組みがあれば教えてください。

回答を入力

アンケートは以上となります。

お忙しい中、最後までご回答いただきまして誠にありがとうございました。

戻る

送信

3/3 ページ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。



(別紙 2)

区役所名	北区役所	都島区
------	------	-----

<区教育行政連絡会について> (区の施策推進に関し、区内の小中校等との必要な連絡調整及び意見交換等を行う)

問 1 令和 4 年度、連絡会を何回開催しましたか。記入例を参考に、校種別でご記入ください。

問 1 【開催回数】	回答 (単位〇回)	回答 (単位〇回)
幼稚園	0	0 回
小学校	0	年 3 回
中学校	0	年 3 回
小中合同	0	0 回
その他 (上記と開催単位が異なる場合)	小学校・中学校の月例校長会と合同で小学校・中学校各年 1 回	0 回

問 2 令和 4 年度、どのような議題で会議を開催しましたか。記入例を参考に主な議題をご記入ください。

問 2	回答	回答
令和 4 年度の議題	令和 5 年度の教育支援事業に関する計画等	学力向上・体力向上・区予算及び校長経営戦略予算

<p>【監査人質問】</p> <p>「区教育行政連絡会」などの区と学校が集まる場において、こどもサポートネット事業における課題の共有、それらの対応策などを検討はされましたか。あるいは、別途議論する場など設置されている場合は、具体的にご説明下さい。</p>	<p>区の会議等では特に行っていませんが、学校ごとに個別の課題がある場合は、直接個別に学校と協議や調整をおこなっています。</p>	<p>「区教育行政連絡会」では事業開始時に説明および協力依頼を行ったが、課題の共有や対応策の検討は行っていない。</p> <p>個別に必要な場合は区の管理職が学校を訪問し、対応策を協議している。</p>
--	---	---

此花区	福島区	中央区
-----	-----	-----

回答（単位〇回）	回答（単位〇回）	回答（単位〇回）
なし	0回	年1回
年12回	0回	年3回
年1回	0回	年3回
年2回	年3回	なし
なし		なし

回答	回答	回答
学校説明会の実施方法 区まちづくり推進予算関係 校長経営戦略支援予算関係	学力向上・体力向上・新型コロナウイルス感染症関係の意見交換・体験学習事業・学校保健協議会関係・小学校と幼稚園保育所の連携・教育現場の働き方改革の意見交換などを行った。	学力向上・体力向上・スクールカウンセラー・不登校・読書・校長経営戦略予算

<p>此花区では、令和5年4月3日（月）の第36回此花区教育行政連絡会において、区との連携事業についての項目があり、こどもサポートネット事業の説明を行っています。なお、此花区教育行政連絡会では、こどもサポートネット事業における課題の共有、それらの対応策などの検討する定期的な議論は設けておりませんが、ケースに応じて学校と区役所で個別に共有、調整などをすすめています。</p>	<p>毎年年度当初に開催する校長会において、担当者の紹介と事業案内を配付。 課題については個別案件となるため、区と学校の会議の場では協議しない。</p>	<p>「区教育行政連絡会」において、こどもサポートネット事業の状況（対応事例等）について報告・共有しています。また、学校教育支援を担当している市民協働課とこどもサポートネット事業を担当している保健福祉課で定期的に、こどもサポートネット事業の連絡会議を実施しています。</p>
---	--	---

区役所名	西区	港区
------	----	----

<区教育行政連絡会について> (区の施策推進に関し、区内の小中校等との必要な連絡調整及び意見交換等を行う)

問1 令和4年度、連絡会を何回開催しましたか。記入例を参考に、校種別でご記入ください。

問1【開催回数】	回答(単位〇回)	回答(単位〇回)
幼稚園		なし
小学校	年6回	1回
中学校	年6回	1回
小中合同		1回
その他(上記と開催単位が異なる場合)		なし

問2 令和4年度、どのような議題で会議を開催しましたか。記入例を参考に主な議題をご記入ください。

問2	回答	回答
令和4年度の議題	学力向上・体力向上・校長経営戦略支援予算・選挙における学校施設利用・平和学習・教科書センター設置・教育会議・こどもサポートネット事業・人権啓発事業・PTA・社会教育関係学習支援事業、等	令和4・5年度予算と取組み、学校ボランティア事業、不登校対策、小学校での「民間の塾事業者による課外学習」の場の開設、学校選択制、学校間の連携、ICT活用、児童だけで校区外に行くことの是非、校則の見直し、部活動の地域移行など。

<p>【監査人質問】</p> <p>「区教育行政連絡会」などの区と学校が集まる場において、こどもサポートネット事業における課題の共有、それらの対応策などを検討はされましたか。あるいは、別途議論する場など設置されている場合は、具体的にご説明下さい。</p>	<p>年度当初に、小学校及び中学校校長会において、こどもサポートネット事業の説明と連携協力の依頼している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区教育行政連絡会(区長、学校長、教育・人権啓発グループ、教育委員会事務局ほか)において、子育て支援グループより、随時、こどもサポートネット事業に関する課題を共有するほか、案件に応じて随時の意見交換等も開催するよう努めています。 令和4年度には令和5年度予算事業の見直しにあたって、不登校に関する意見交換を開催しましたが、その際には、区教育行政連絡会のメンバーに加えて、こサポSSWやこサポ推進員、心理士等も参加し、意見交換を行いました。
--	---	---

大正区	天王寺区	浪速区
-----	------	-----

回答（単位〇回）	回答（単位〇回）	回答（単位〇回）
年0回	開催なし	
年7回	年3回	
年10回	年3回	
年0回	開催なし	年1回
—		

回答	回答	回答
学校協議会・学校選択制・校長経営戦略支援予算・総合防災訓練・事務連絡等	学力向上・体力向上・校長経営戦略予算・区との連携事業・防災活動	(1)浪速区運営方針・予算について (2)令和5年度事業・予算について (3)子育て支援室との連携について (4)その他

「区教育行政連絡会」でこどもサポートネット事業の説明と連携協力の依頼を行うとともに、課題の共有、検討を行っている。	「区教育行政連絡会議」において「教育会議」の資料を用いてこどもサポートネット事業における課題の共有を行っている。	「区教育行政連絡会」において、こサポの活用状況を報告し意見集約を行っている。
---	--	--

区役所名	西淀川区	淀川区
------	------	-----

<区教育行政連絡会について> (区の施策推進に関し、区内の小中校等との必要な連絡調整及び意見交換等を行う)

問1 令和4年度、連絡会を何回開催しましたか。記入例を参考に、校種別でご記入ください。

問1【開催回数】	回答(単位〇回)	回答(単位〇回)
幼稚園	年0回	
小学校	年1回	年3回
中学校	年1回	年3回
小中合同	年2回	
その他(上記と開催単位が異なる場合)		

問2 令和4年度、どのような議題で会議を開催しましたか。記入例を参考に主な議題をご記入ください。

問2	回答	回答
令和4年度の議題	学校図書館活用推進事業、外国につながる児童生徒の早期把握と支援策、校長経営戦略予算、ブロック予算、学校協議会	区役所の次年度事業に向けた検討・新型コロナウイルス感染症対策・健康観察アプリ・スクリーニング会議Ⅱ・要対協・学校図書館司書・ヤングケアラー

<p>【監査人質問】</p> <p>「区教育行政連絡会」などの区と学校が集まる場において、こどもサポートネット事業における課題の共有、それらの対応策などを検討はされましたか。あるいは、別途議論する場など設置されている場合は、具体的にご説明下さい。</p>	<p>毎年、教育行政連絡会でこどもサポートネットの現状について報告を行い、課題の共有を行っている。 https://www.city.osaka.lg.jp/nishiyodogawa/page/0000604333.html (令和5年度第1回) https://www.city.osaka.lg.jp/nishiyodogawa/page/0000595205.html (令和4年度第3回)</p>	<p>区教育行政連絡会で挙げた意見や課題について、区の対応策などを検討している。また、チーム学校の一員であるSSWが、日頃から学校と連携しています。</p>
--	---	--

東淀川区	東成区	生野区
------	-----	-----

回答（単位〇回）	回答（単位〇回）	回答（単位〇回）
市立幼稚園なし		開催なし
年3回	年3回	2回（義務教育学校含む）
年3回	年3回	2回（義務教育学校含む）
なし		開催なし

回答	回答	回答
校長経営戦略支援予算、就学、はぐくみネット、SSW	平和学習、啓発冊子、区長表彰、学校選択制、区教育会議、学校協議会、避難情報等	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度生野区教育事業 ・「IKUNO未来教育ネットワーク」 ・塾事業

<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて「区教育行政連絡会」、「区内小中学校校長会」、区独自で実施している「こどもサポートネット研修会」の場を活用し情報や課題について共有し、対応策の検討を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末（3月末）にSSW・こサポ推進員が学校訪問する際、スクII会議実施状況・連絡票件数・連携会議や連携先（サービス）・対応ケースの傾向や課題・支援内容等を記した「東成区こどもサポートネット事業活動報告」を共有し、各学校との課題等の共有を図っている ・要保護児童対策地域協議会代表者会議（小中学校も参画）においても、実施状況や課題等について報告している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「区教育行政連絡会」において、児童生徒の不登校や虐待の課題について、こどもサポートネット事業を含めた課題認識や対応策等の情報共有を図っている。また、学校と区（支援室）が常に児童生徒についての連絡を取り合う関係や体制を構築しており、課題共有や対応に向けて話し合いを行って連携、協力している。
---	---	---

区役所名	旭区	城東区
------	----	-----

<区教育行政連絡会について> (区の施策推進に関し、区内の小中校等との必要な連絡調整及び意見交換等を行う)

問1 令和4年度、連絡会を何回開催しましたか。記入例を参考に、校種別でご記入ください。

問1【開催回数】	回答(単位〇回)	回答(単位〇回)
幼稚園	0回	なし
小学校	年3回	年3回
中学校	年3回	年4回
小中合同	0回	なし
その他(上記と開催単位が異なる場合)	—	なし

問2 令和4年度、どのような議題で会議を開催しましたか。記入例を参考に主な議題をご記入ください。

問2	回答	回答
令和4年度の議題	学力向上、体力向上、性・生教育、防災、区の教育関連施策・事業・予算、その他(就学関連等)	いじめ・不登校、教員の働き方改革、学力・自尊感情向上の取組み、学校協議会、キャリア教育、区教育理念の策定、学校選択制

<p>【監査人質問】</p> <p>「区教育行政連絡会」などの区と学校が集まる場において、こどもサポートネット事業における課題の共有、それらの対応策などを検討はされましたか。あるいは、別途議論する場など設置されている場合は、具体的にご説明下さい。</p>	<p>年度当初に各学校に訪問を行うとともに、スクリーニング会議Ⅱ等の機会においても個別課題の共有等を行っている。</p>	<p>定期的に行われている区内の校長会の場で各校長に諮りながら、各学校においてより本事業が活用しやすくなるよう中学校の生徒指導主事や小学校の教頭を対象にした、実務者研修会を毎年実施している。その中で好事例等の事例報告を行いながら、事業を進めるイメージを学校と区役所の実務者で共有し、意見交換やアンケートを通じて意見聴取しながら事業改善に繋げている。</p>
--	--	--

鶴見区	阿倍野区	住之江区
-----	------	------

回答（単位〇回）	回答（単位〇回）	回答（単位〇回）
0回	開催なし	0回
年2回	年2回	年2回
年2回	年3回	年2回
0回	開催なし	0回
	幼稚園、小学校、中学校合同で年1回	

回答	回答	回答
学校選択制、区の教育関連施策・事業、校長経営戦略支援予算、こどもサポートネット事業	区教育会議や区役所事業についての情報提供	区教育関連事業、防災の取組み、ブロック会議等に係る意見交換、区政会議委員からの意見の共有など

年2回開催の教育行政連絡会において、こどもサポートネット事業の情報共有を行っている。	区教育行政連絡会で必要に応じて課題の共有や意見交換を行っています。別途議論する場は設置していません。	「区教育行政連絡会」にて、こどもサポートネット事業における課題の共有、対応策などを検討している。
--	--	--

区役所名	住吉区	東住吉区
------	-----	------

<区教育行政連絡会について> (区の施策推進に関し、区内の小中校等との必要な連絡調整及び意見交換等を行う)

問1 令和4年度、連絡会を何回開催しましたか。記入例を参考に、校種別でご記入ください。

問1【開催回数】	回答(単位〇回)	回答(単位〇回)
幼稚園	—	
小学校	年3回	年1回
中学校	年3回	年1回
小中合同	—	
その他(上記と開催単位が異なる場合)	—	小中合同(中学校区)で3ブロック(北部・中部・南部)に分けて年1回

問2 令和4年度、どのような議題で会議を開催しましたか。記入例を参考に主な議題をご記入ください。

問2	回答	回答
令和4年度の議題	様々な教育課題について意見交換	教育の課題について(意見交換)・校長経営戦略支援予算、魅力ある学校づくり応援団、子どもの学習・体験機会事業、学校選択制、学校協議会など

<p>【監査人質問】</p> <p>「区教育行政連絡会」などの区と学校が集まる場において、こどもサポートネット事業における課題の共有、それらの対応策などを検討はされましたか。あるいは、別途議論する場など設置されている場合は、具体的にご説明下さい。</p>	<p>事業が開始される直前の令和元年度の区教育行政連絡会(小・中学校)において、区より制度の説明を行い課題の共有と対応策について話し合いました。また令和3年度の区教育行政連絡会(小・中学校)でも、区役所及び各学校の課題点について意見交換を行っています。</p>	<p>区教育行政連絡会(各ブロック)において、こどもサポートネット事業の実績報告や進行状況などを説明する機会を設けている。</p>
--	--	---

平野区	西成区
-----	-----

回答（単位〇回）	回答（単位〇回）
年1回	年0回
年3回	年0回
年2回	年0回
0回	年4回
	小中学校長のうち、代表6名によるプロジェクトチーム会議11回

回答	回答
読書運動・表彰制度・ゲストティーチャー制度・英語スピーチコンテスト・こども学力サポート事業・課外学習支援事業 等	令和4年度及び令和5年度の西成区教育関連事業の実施について（校長経営戦略予算、西成区事業など） 第三期西成特区構想における取組みについて

<ul style="list-style-type: none"> 当区の教育行政連絡会においては、各小中学校との間で実施予定や実施状況について適宜情報共有するとともに、こどもサポートネット推進員の確保等の課題についても共有し、区役所として課題解決に向け取り組みを重ねていることを説明しています。 その他、区政会議や平野区教育会議、区長と各学校長との面談、区長と学校協議会委員との意見交換、主任児童委員の会議等でも情報共有や意見交換を行っています。 	<p>区教育行政連絡会や校長会などにおいて課題の共有等を行っている。なお、学校との緊密な情報共有ができることや、課題のある児童生徒に対して、より効果的な支援ができることにつながると考えられるため、令和4年度よりSSWが学校に対して定期的に訪問等する取組みを実施しており、学校と区役所の連携強化をはかっている。</p>
---	--

(別紙 3)

大阪市子どもサポートネットに係るアンケート

学校名 大阪市立 学校

○スクリーニングシートについて

問 1 スクリーニングシート作成にかかった時間（教員1人当たりの時間）について、選択してください。

(詳細の時間を割り出してもらする必要はありません。概ね平均的にかかっている時間を選択してください。)

- ア 30分未満
- イ 30分以上60分未満
- ウ 60分以上90分未満
- エ 90分以上

回答 ブルダウン選択

問 2 スクリーニングシートの導入で得られた効果について、あてはまるものには「1」を、あてはまらないものには「0」を入力してください。

(大阪市子どもサポートネットの成果のみにとらわれず、スクリーニングシートの導入した効果としてお答えください。)

- | | 回答 |
|----------------------------------|------------------------------|
| ア 作成を行うことで、教員の児童生徒の現状把握の意識が高まった。 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| イ 課題の見える化による教員同士の共通理解が進んだ。 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| ウ こどもの課題が明確になった。 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| エ その他 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |

エその他があてはまる場合は、
内容を右に入力してください。

問 3 スクリーニングシートの加筆修正の頻度について、選択してください。

- ア 月1回
- イ 2か月に1回
- ウ 3か月に1回
- エ 子どもの変化の都度
- オ その他

回答 ブルダウン選択

オその他を選択した場合は、
内容を右に入力してください。

問 4 学校でのスクリーニングシート入力基準の設定について、選択してください。

- ア 行っている
- イ 行っていない

回答 ブルダウン選択

○スクリーニング会議 I について

問 5 スクリーニング会議 I の構成メンバーについて、あてはまるものには「1」を、あてはまらないものには「0」を入力してください。

- | | 回答 |
|--------------|------------------------------|
| ア 校長 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| イ 教頭 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| ウ 生活指導担当 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| エ 学年主任 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| オ 学級担任 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| カ 養護教諭 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| キ スクールカウンセラー | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| ク その他の教職員 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |

クその他の教職員があてはまる
場合は、内容を右に入力して
ください。

問6 スクリーニング会議Ⅰの開催頻度について、選択してください。

- ア 月1回
- イ 2か月に1回
- ウ 3か月に1回
- エ 子どもの変化の都度
- オ その他

回答 ブルダウン選択

オその他を選択した場合は、
内容を右に入力してください。

問7 スクリーニング会議Ⅰの実施方法について、選択してください。

- ア 職員会議の中で実施
- イ 職員会議とは別にスクリーニング会議Ⅰを開催

回答 ブルダウン選択

問8 令和4年度の1回目のスクリーニング会議Ⅰの開催時期について、選択してください。

- ア 4月
- イ 5月
- ウ 6月
- エ 7月
- オ 8月
- カ 2学期以降

回答 ブルダウン選択

問9 スクリーニング会議Ⅰの1回目の開催時期が問8の回答となった理由を教えてください。

○スクリーニング会議Ⅱについて

問10 スクリーニング会議Ⅱの構成メンバーについて、あてはまるものには「1」を、あてはまらないものには「0」を入力してください。

- | | 回答 |
|-----------|------------------------------|
| ア 校長 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| イ 教頭 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| ウ 生活指導担当 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| エ 学年主任 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| オ 学級担任 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| カ 養護教諭 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |
| キ その他の教職員 | <input type="text"/> ブルダウン選択 |

キその他の教職員があてはまる
場合は、内容を右に入力して
ください。

問11 スクリーニング会議Ⅱの開催頻度について、選択してください。

- ア 月1回
- イ 2か月に1回
- ウ 3か月に1回
- エ 子どもの変化の都度
- オ その他

回答 ブルダウン選択

オその他を選択した場合は、
内容を右に入力してください。

問12 スクリーニング会議Ⅱにはかる児童生徒の選定基準について、選択してください。

- ア 設けている
- イ 設けていない

回答 ブルダウン選択

問13 問12で設けている場合はその基準の内容と理由、設けていない場合はその理由について教えてください。

問14 令和4年度の1回目のスクリーニング会議Ⅱの開催時期について、選択してください。

- ア 4月
- イ 5月
- ウ 6月
- エ 7月
- オ 8月
- カ 2学期以降

回答 ブルダウン選択

問15 スクリーニング会議Ⅱの1回目の開催時期が問14の回答となった理由を教えてください。

問16 スクリーニング会議Ⅱの課題について、あてはまるものには「1」を、あてはまらないものには「0」を入力してください。

	回答
ア 日程調整	<input type="checkbox"/> ブルダウン選択
イ 構成メンバー	<input type="checkbox"/> ブルダウン選択
ウ こどもサポートネットSSW	<input type="checkbox"/> ブルダウン選択
エ こどもサポートネット推進員	<input type="checkbox"/> ブルダウン選択
オ その他	<input type="checkbox"/> ブルダウン選択

オその他があてはまる場合は、内容を右に入力してください。

また、あてはまるものがある場合、それが課題であると思われる理由を教えてください。

問17 令和4年度中に開催したスクリーニング会議Ⅱにはかられた児童生徒数（実数）を教えてください。

回答 人

問18 問17のうち、教育分野や福祉分野等の何らかの支援につながった児童生徒数（実数）を教えてください。

回答 人

○子どもサポートネットスクールソーシャルワーカーの活用について

問19 令和4年度中に、子どもサポートネットスクールソーシャルワーカーに相談し、助言を受け、支援や対応をした（子どもサポートネットスクールソーシャルワーカーの関与があった）児童生徒数（実数）を教えてください。

回答 人

問20 問19のうち、あてはまる児童生徒数（実数）を教えてください。

回答	
ア 支援や対応後、好転した	<input type="text"/> 人
イ 支援や対応後、変化なし	<input type="text"/> 人
ウ 支援や対応後、悪化した	<input type="text"/> 人

○大阪市子どもサポートネットの効果について

問21 大阪市子どもサポートネットの効果について、あてはまるものには「1」を、あてはまらないものには「0」を入力してください。

回答	
ア 福祉施策を知ることができた。	<input type="text"/> ブルダウン選択
イ 区役所との情報交換により世帯の状況がわかるようになった。	<input type="text"/> ブルダウン選択
ウ 世帯が福祉施策につながることで児童生徒の課題が好転した。	<input type="text"/> ブルダウン選択
エ 福祉施策と学校の指導助言の両輪で世帯と子どもを支援できるので教職員の負担が軽くなった。	<input type="text"/> ブルダウン選択
オ その他	<input type="text"/> ブルダウン選択

オその他があてはまる場合は、内容を右に入力してください。

○学校と区役所の連携について

問22 学校と区役所の連携はとれているか、あてはまるものを選択してください。

ア とれている	<input type="text"/>
イ どちらともいえない	<input type="text"/>
ウ とれていない	<input type="text"/>

回答 ブルダウン選択
イまたはウと答えた場合は、理由を右に入力してください。

○その他

問23 大阪市子どもサポートネットを効果的に活用するために、有効であると思われることがあれば教えてください。

問24 その他、大阪市子どもサポートネットを実施するうえで、課題であると思われることやご意見があれば教えてください。